

佐賀県における地下水の塩水化

水質変化調査結果
(調査地点40点のうち塩水化指標が高い地点)

佐賀地区

採水地点 No	EC25($\mu\text{s}/\text{cm}$)		Cl-(mg/l)	
	平成13年度	平成18年度	平成13年度	平成18年度
98	3240	4210	886.1	1300.0

白石地区

採水地点 No	EC25($\mu\text{s}/\text{cm}$)		Cl-(mg/l)	
	平成12年度	平成17年度	平成12年度	平成17年度
44	1300	1390	280.0	314.0
53	1000	933	180.0	148.0
61	1600	1070	400.0	174.0
117	600	574	110.0	96.3



塩水化が見られる地域

- 有明海沿岸や六角川沿いにおいては塩水化が見られることから、今年度は、白石地区における地下水の塩水化・水質変化調査を行っている。
- 塩水化については、有明海沿岸部や六角川沿いにみられるが、全体的な進行程度については、塩水化の指標である電気伝導度(EC25)や塩素イオン(Cl-)濃度にあまり大きな変化は認められない。
- 来年度は佐賀地区の塩水化・水質変化調査を予定している。

佐賀県フルプランエリア工業出荷額と工業用水道取水量について

- 現計画では、工業用水の水源配分に際し、地盤沈下対策の観点から地下水利用を抑制する方針とし、過去10年間の実績データから業種毎の出荷額について伸びを推計して算出して、これに推計した業種毎の使用水量の原単位から工業用水道取水量を推計。
- 原単位では3業種の中で加工組立が一番小さく、基礎資材、生活関連の順で大きくなる。
- 出荷額全体としては推計に近い値となっており、3業種では加工組立が予想以上に伸びているが、原単位が小さいため、取水量の実績はあまり伸びていない状況。

